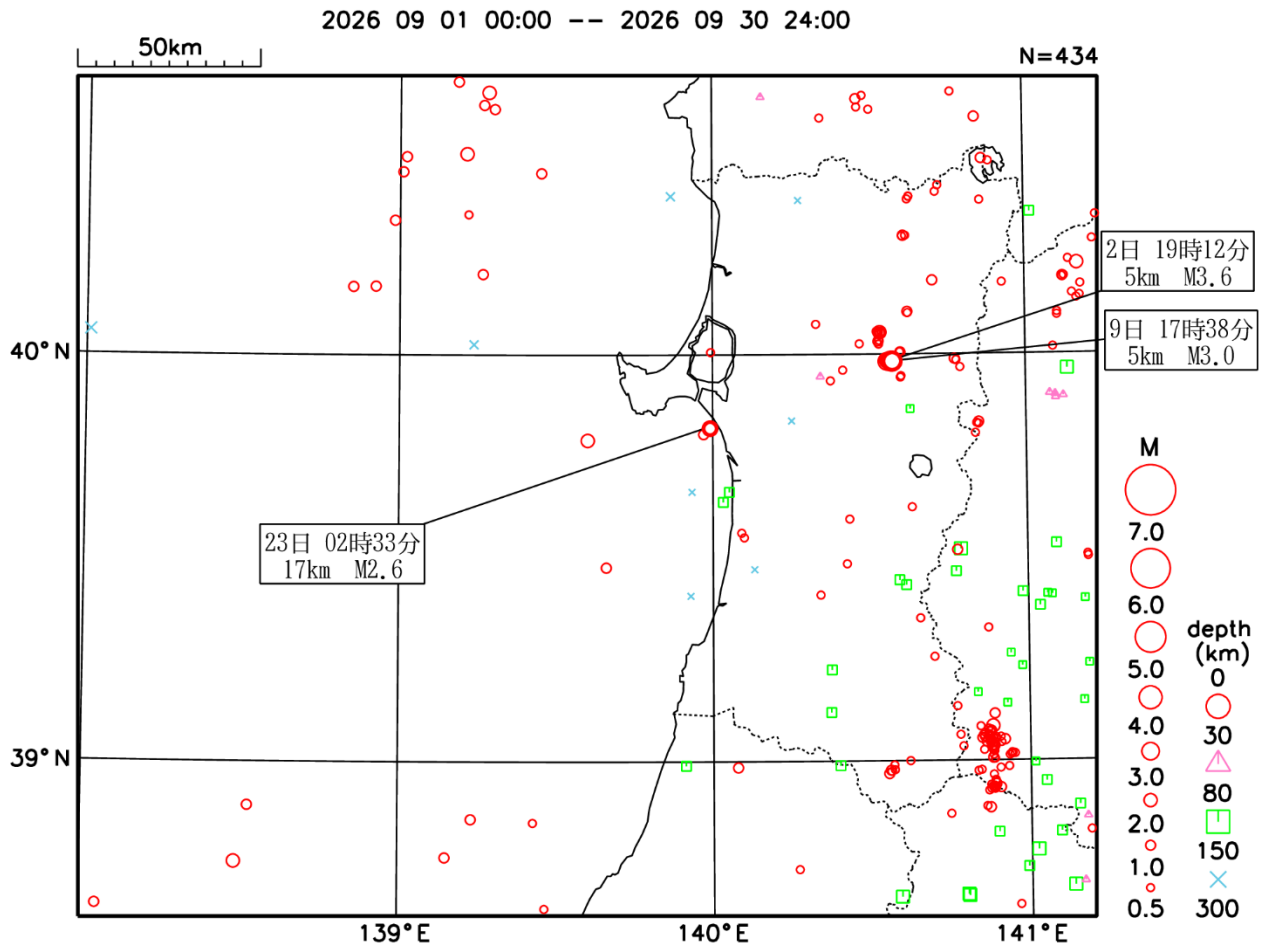


秋田県月間地震概況

秋田地方気象台

2026 年 9 月

【震央分布図】



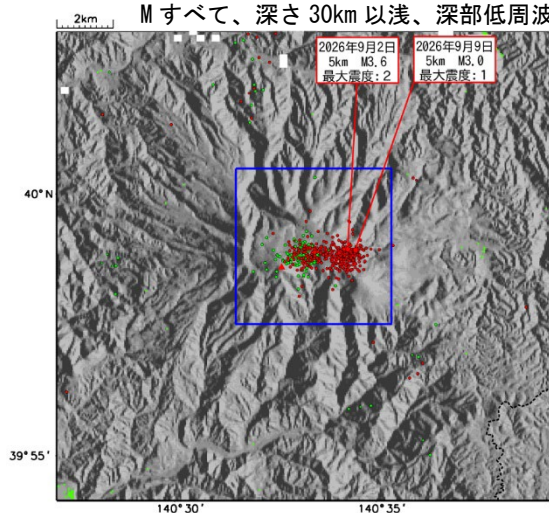
〈 9 月 の 地 震 概 況 〉

今期間、秋田県内で震度1以上を観測した地震は4回（8月：7回）で、図の範囲内を震源とする地震が3回、図の範囲外を震源とする地震は1回であった。

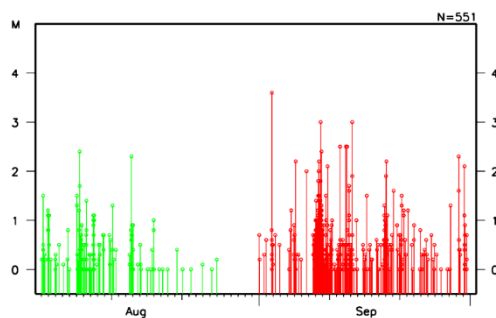
2日19時12分に秋田県内陸北部の深さ5kmでM3.6の地震が発生し、仙北市で震度2を観測したほか、県内では大館市、北秋田市で震度1を観測した。また、9日17時38分にほぼ同じ場所の深さ5kmでM3.0の地震が発生し、仙北市で震度1を観測した。これらの地震は地殻内で発生した。

震央分布図（2026. 8. 1～2026. 9. 30）

M すべて、深さ 30km 以浅、深部低周波地震除く



左図青枠領域内のM-T図



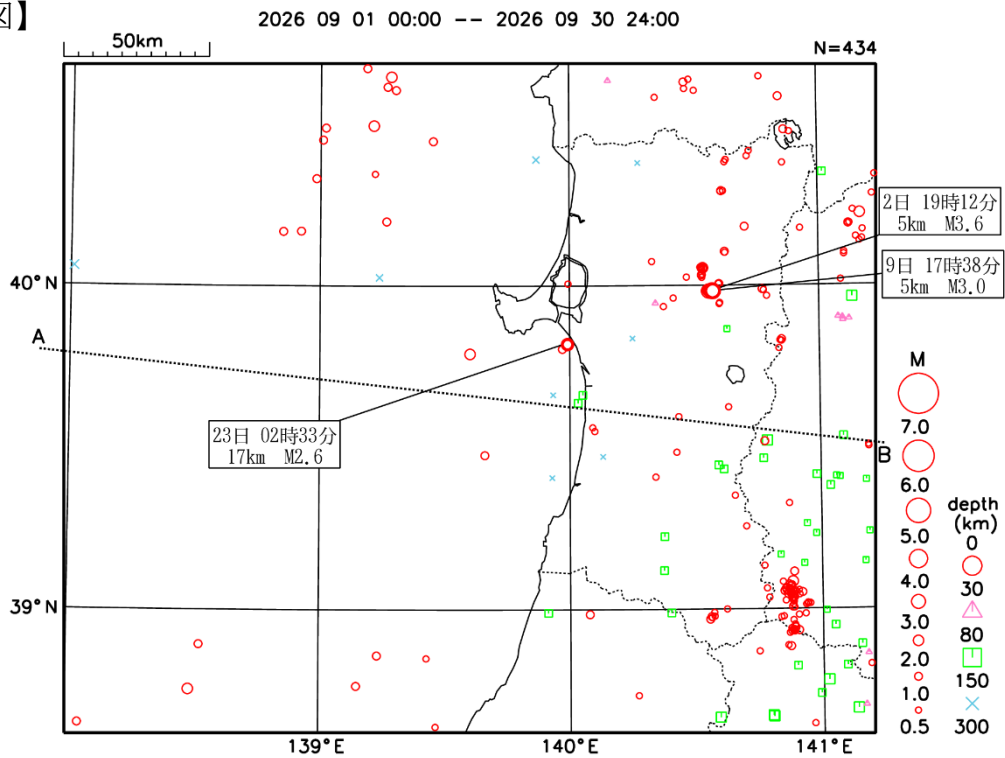
8月は森吉山の山頂付近で活動が見られていたが、9月に入り森吉山の山頂の東側でまとまった活動が見られた。上記の地震を観測した後、次第に地震数は減少傾向である。

6日14時15分に青森県東方沖（図の範囲外）の深さ39kmでM4.8の地震が発生し、青森県と岩手県で震度2から1を観測したほか、北海道から宮城県にかけて震度1を観測した。県内では北秋田市、大館市、鹿角市、小坂町で震度1を観測した。この地震は太平洋プレート内部で発生した。

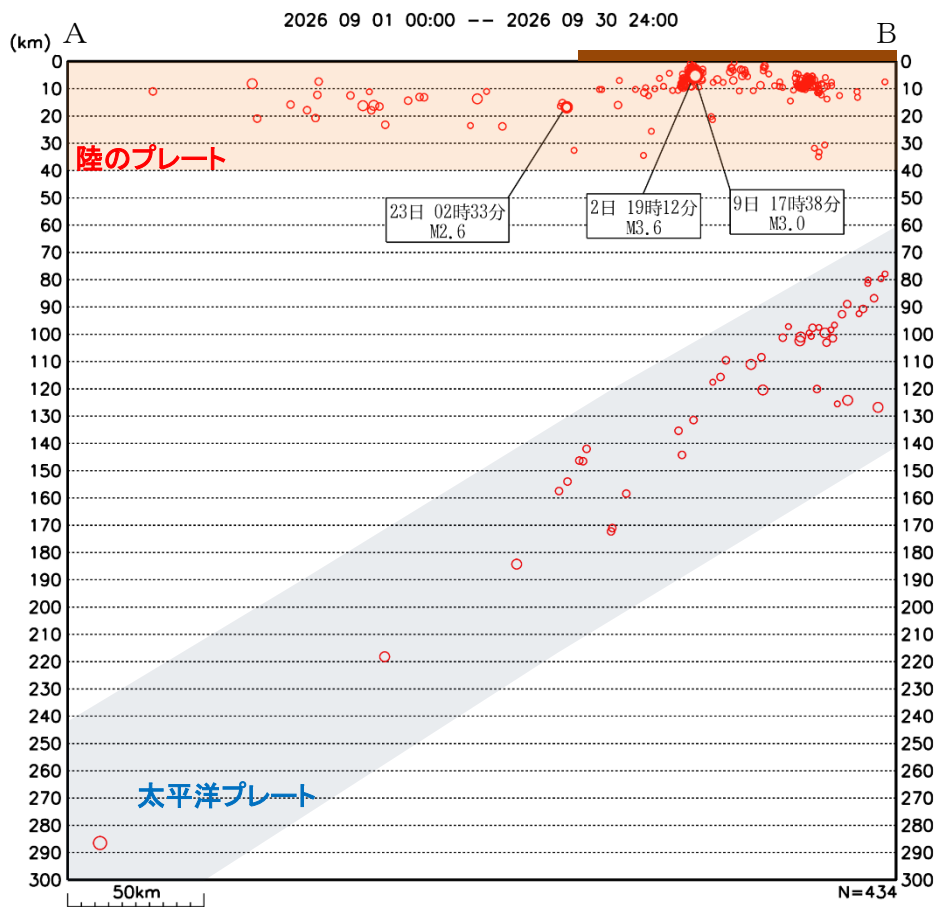
23日02時33分に秋田県沖の深さ17kmでM2.6の地震が発生し、秋田市で震度1を観測した。この地震は地殻内で発生した。

本件に関する問い合わせ先 秋田地方気象台 TEL 018-864-3955
秋田地方気象台ホームページアドレス <https://www.data.jma.go.jp/akita/>

【震央分布図】



【断面図】 (震央分布図内の直線A－Bを断面として投影した震源の深さの分布)



- ※ 太平洋プレート及び陸のプレートの位置は、地震発生状況を考慮して描いた大まかなものである。
 - ※  は陸地の大まかな位置を示している。
 - ※ 陸地から離れた海域ほど、震源の深さ精度は良くない。
- なお、海域地殻内の地震の震源（日本海の浅い地震など）は、実際にはより浅いものが多いと考えられる。

秋田県で震度 1 以上を観測した地震の表

※今後の精査により、震源や震度のデータが追加されることがある。

期間 2026年 9 月 1 日～2026年 9 月30日

発震時	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
各地の震度					
2026年09月02日19時12分	秋田県内陸北部	39° 58.9' N	140° 34.3' E	5km	M3.6
秋田県	震度 2 : 仙北市西木町上桧木内 *				
	震度 1 : 大館市桜町 *, 大館市比内町扇田 *, 北秋田市阿仁水無 *, 北秋田市新田目 *, 仙北市田沢湖田沢 *				
2026年09月06日14時15分	青森県東方沖	40° 42.5' N	142° 56.2' E	39km	M4.8
秋田県	震度 1 : 大館市桜町 *, 大館市早口 *, 鹿角市花輪 *, 小坂町小坂砂森 *, 北秋田市花園町				
2026年09月09日17時38分	秋田県内陸北部	39° 58.9' N	140° 34.4' E	5km	M3.0
秋田県	震度 1 : 仙北市西木町上桧木内 *				
2026年09月23日02時33分	秋田県沖	39° 49.1' N	139° 59.5' E	17km	M2.6
秋田県	震度 1 : 秋田市八橋運動公園 *				

(注) 地震の震源要素等は暫定値であり、再調査により変更することがある。
各地の震度は秋田県のみを示し、*は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点である。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025 年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。

明治 27 年の複合災害に学ぶ 豪雨の 2 か月後に発生した庄内地震と大森虎之助の調査記録

1894 年（明治 27 年）10 月 22 日、山形県庄内地方を震源とするマグニチュード 7.0 の内陸地震「庄内地震」が発生しました。大きな被害は山形県庄内地方を中心に発生しましたが、秋田県でも現在の由利本荘市やにかほ市にあたる地域で被害が報告されています。土蔵の壁の崩落などの建物の被害のほか、道路の亀裂や地面の液状化による噴砂現象が発生し、地震の揺れの大きさを物語っています。

この庄内地震を語るうえで忘れてはならないのが、そのわずか 2 か月前に秋田県を襲った大雨災害です。8 月 25 日に秋田県内は記録的な大雨に見舞われ、雄物川や子吉川が氾濫しました。浸水した家屋は雄物川流域で約 1 万 8,000 戸、子吉川流域でも本荘町で約 2,000 戸に及び、県内の広い範囲



伏木測候所職員，前列右端が大森虎之助
（富山湾乃蜃気楼に掲載された写真）

で甚大な被害が発生しました。多くの住民が浸水被害に苦しみ、各地で復旧作業が続いていました。庄内地震が発生したのはこうした豪雨災害からの復旧が続く最中のことでした。短期間のうちに洪水と地震という二つの災害に直面したのです。

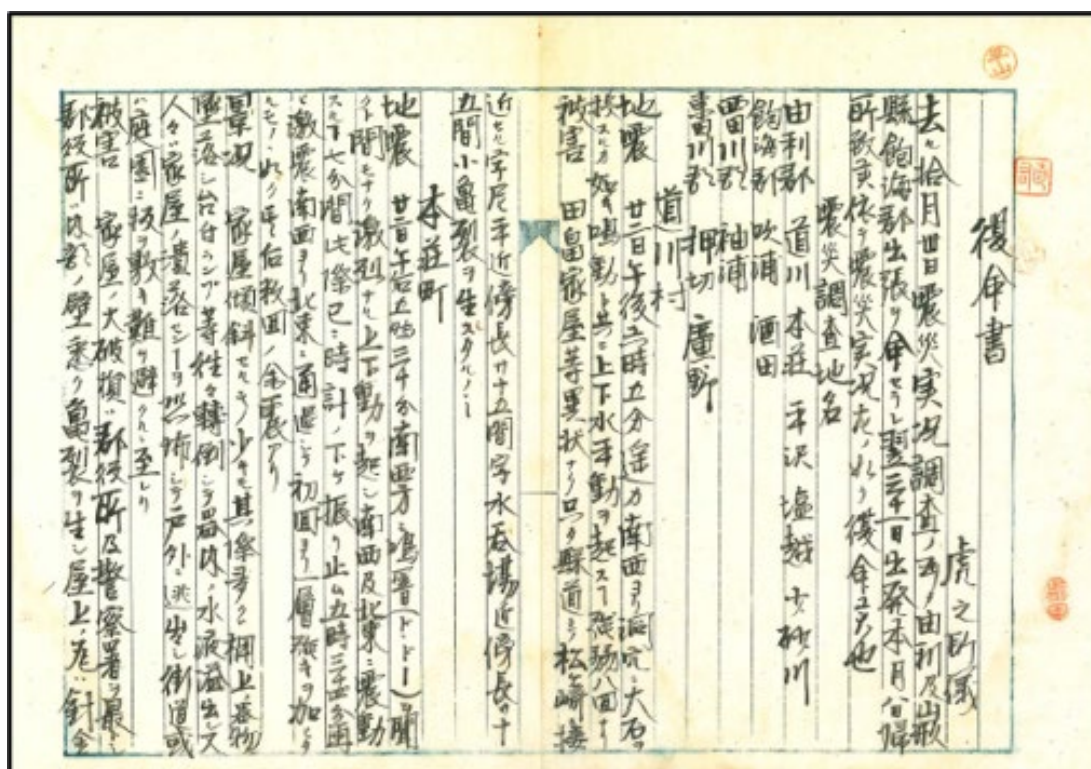
地震発生当時、秋田測候所に勤務していたのが後に富山県伏木測候所長となり、新田次郎の短編小説『迷走台風』のモデルとして知られる大森虎之助です。大森は庄内地震の発生後、被害状況を調査するため現地へ派遣されました。由利本荘市やにかほ市を経て、山形県酒田市付近まで赴き、各地の被害状況を詳しく調査しています。その調査結果は復命書としてまとめられ、現在も秋田地方気象台に保管されています。復命書には、建物や道路の被害状況、地盤の変状などが記録されており、130 年以上前の災害の実態を今に伝える貴重な歴史資料となっています。

なお、今年 9 月 6 日に実施された秋田県総合防災訓練では、「レベル 5 大雨特別警報が

発表された翌日に山形県庄内沖で大規模地震が発生する」という想定で行われました。秋田県では130年以上前にこれとよく似た状況を経験しています。明治27年8月25日の豪雨で雄物川や子吉川が氾濫し、県内各地が大きな被害を受けました。そして、その復旧が続く中で、10月22日に庄内地震が発生し、人々は相次ぐ災害への対応を迫られます。

災害は一つずつ発生するとは限りません。過去の記録は、大雨への対応中に地震が発生するような複合災害が、決して現実離れしたものではないことを教えてくれています。130年以上前に大森虎之助が残した庄内地震調査の復命書は、当時の被害状況を伝える貴重な歴史資料であるとともに、複合災害への備えの重要性を私たちに教えてくれる記録でもあります。

近年も秋田県では大雨による河川の氾濫や土砂災害が発生しており、一つの災害に対応している最中に別の災害が発生する可能性もあります。過去の災害を知ることは、未来の災害への備えにつながります。ハザードマップの確認や避難場所・避難経路の把握、非常持出品の準備など、日頃からできる備えを進めておきましょう。大森虎之助が記録した庄内地震と豪雨災害の歴史は、「災害は一つずつ起きるとは限らない」という教訓を今に伝えています。先人たちが残した記録に学び、複合災害への備えを日頃から心掛けていきましょう。



大森虎之助の庄内地震の現地調査の復命書

11月5日は津波防災の日です

「津波防災の日」とは？

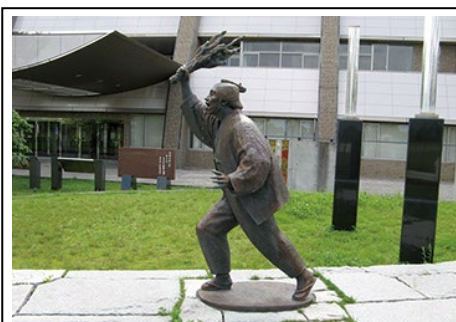
「津波防災の日」とは、津波対策についての理解と関心を深めることを目的として、「津波対策の推進に関する法律」により定められた日です。この法律は、平成23年3月に発生した東日本大震災を受けて同年6月に制定されました。江戸時代に大きな津波被害をもたらした「安政南海地震」が発生した日にちなみ、11月5日[†]を「津波防災の日」としています。津波防災の日の前後に津波避難訓練を行う自治体もあります。皆さんも、津波からの避難について職場や家庭で話し合う機会とし、津波避難訓練が行われる地域にお住まいの方は訓練に参加しましょう。

11月5日は
津波防災の日

安政南海地震と「稲むらの火」

安政元年（1854年）11月5日[†]、紀州藩広村（現在の和歌山県広川町）は安政南海地震とそれに伴う津波に襲われました。このとき35歳になる濱口梧陵は、逃げ遅れた村人が暗闇の中で逃げる方向を見失わないよう、道筋にあたる水田の稲むら（取り入れの終わった稲わらを屋外に積み重ねたもの）に松明で次々に火をつけ、村人を安全な場所に導き、津波から多くの命を救いました。

それからおよそ40年後の明治29年（1896年）、ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）は安政南海地震の際の濱口梧陵の偉業をヒントに、「A Living God（生き神様）」という短編小説を書きました。その後、小学校教員の中井常蔵により小学生向けに書き改められ、「稲むらの火」と題して昭和12年から10年間、小学国語読本（5年生）に掲載されました。読本の「稲むらの火」は、五兵衛という老人が、海が引くのを見て津波の襲来を予測[※]し、何も気づかない村人にこのことを知らせるため、稲むらに火をつけ、安全な場所に避難させたという話です。この「稲むらの火」は実際の話とは異なっていますが、これを学んだ小学生に深い感銘を与えるとともに、防災に関する基礎知識を伝えたと評価されています。



濱口梧陵が稲むらに火をつけようと松明を持って走る姿の銅像。広川町役場前の稲むらの火広場。

出典：特集 津波防災の日（内閣府）
https://www.bousai.go.jp/kohou/kouho/ubousai/h26/76/special_01.html

【参考】 稲むらの火（気象庁）

<https://www.data.jma.go.jp/egev/data/tsunami/inamura/p1.html>

稲むらの火と津波対策（内閣府）

<https://www.tokeikyoku.or.jp/bousai/inamura-top.htm>

平成16年度国土交通白書

<https://www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/h16/hakusho/h17/index.html>

[†] 安政南海地震の発生日「安政元年11月5日」は旧暦での日付であり、現在の歴では1854年12月24日となります。

[※] 実際の津波は、必ずしも「引き」から始まるとは限りません。

11月5日に緊急地震速報の訓練を行います

気象庁では、**令和8年11月5日（木）10時00分頃**に緊急地震速報の全国的な訓練を行い、訓練用の緊急地震速報を発信します。発信される訓練用の緊急地震速報を活用した訓練の方法などについては、以下のページをご参照ください。

○緊急地震速報を活用した訓練（令和8年11月5日）

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/jishin/ee/kunren/2026/kunren.html>

訓練を行う方法や訓練時の行動に加えて、日頃からの備えを紹介していますので、ご確認ください。皆さんも訓練を実施してみましょう。

※この訓練で使用する訓練用の緊急地震速報は、テレビ・ラジオや携帯電話（緊急速報メール）向けには流れません。